

国連食糧農業機関が示す5つの認定基準

1. 食料と生計の保障
2. 生物多様性と生態系機能
3. 知識システムと適応技術
4. 文化、価値観、社会組織（農文化）
5. 優れた景観、土地と水資源管理の特徴



1. 食料と生計の保障

長良川では、鮎を中心とした内水面漁業が盛んです。また、水産業だけでなく、地域の主要な観光資源でもある鵜飼や食文化とも深く結びつくなど、産業としてのすそ野が広く、「鮎産業」に多くの人々が関わっています。



2. 生物多様性と生態系機能

長良川流域は、豊かな自然とそれを利用・維持する人々の努力により、多様な生物が生息する環境が保たれています。太平洋から遡上するアユ、サツキマスなどの回遊魚のほか、特別天然記念物のオオサンショウウオや天然記念物のネコギギも生息しています。

長良川は流域の人々のくらしの中で、清流が保たれ、その清流で鮎が育ち、清流と鮎は地域の経済や歴史文化と深く結びついています。

長良川における人の生活、水環境、漁業資源が連環する里川のシステムは、世界に誇るべき『長良川システム』と呼べるものです。



3. 知識システムと適応技術

長良川には、「鵜飼漁」「郡上釣り」「瀬張り網漁」「夜網漁」など様々な伝統漁法が今もなお引き継がれています。鮎の資源を持続的に確保するため、遺伝的多様性に配慮した河川産稚魚の放流や、天然鮎を増やす「孵化放流」に取り組んでいます。



4. 文化、価値観、社会組織（農文化）

長良川鵜飼は、室町時代から現在とほぼ同じ漁法で行われています。全国で長良川鵜飼の鵜匠のみが、宮内庁式部職鵜匠に任命されています。きれいな水・こうぞをもとに、日本三大和紙のひとつ「美濃和紙」が伝承されています。美濃和紙は、岐阜の和傘、提灯、うちわにも使われ、これらの伝統技術と原材料を守る活動も行われています。



5. 優れた景観、土地と水資源管理の特徴

里川の風景は人々に安らぎを与えると同時に、水、農林水産業、伝統産業は、情緒ある町並みを形づくりました。この水が織りなす景観を守るため、水を無駄にせず下流にきれいな水を届けるための「水舟」という知恵が今も生き続け、また、地域の人々が協働して源流の森で植林活動に取り組んでいます。